

# 塩尻市立自然博物館のあり方に関する提言書

令和4年10月11日

塩 尻 市 議 会

塩尻市長 百 瀬 敬 様

塩尻市議会では、国内外のチョウをはじめとする貴重な昆虫標本、自然に関する資料を多数収蔵する塩尻市立自然博物館（以下「自然博物館」という。）が小坂田公園再整備事業に伴い、現状の施設を移転させ、令和6年度に室内子どもアスレチックへの改修工事、令和7年度に供用開始をすることが令和元年に決定しています。にもかかわらず、一般質問で多くの議員が移転に関する進捗状況を確認しましたが、移転先が総合文化センター3階、旧檜川中学校、小坂田公園レストラン棟1階に変遷する状況に多くの議員がきちんとした方針が定まっていないことに疑問を抱き、令和4年6月22日に社会文教常任委員会と総務産業常任委員会の合同による協議会において議員全員により自然博物館のあり方を調査・研究することを決めました。

以後、自然博物館の移転先の決定は時間的制約があり、喫緊の課題であるとの共通認識のもと、自然博物館及び小坂田公園再整備事業の現地視察、担当課への所管事務調査、信州大学の東城幸治副学長等による専門家からの講演及び意見交換を実施しました。

その結果、自然博物館にあっては、行政側の財政状況等を加味する中で移転先は市の遊休施設のうちから選択する方針であることを受け、本議会としては新たに自然博物館を建設する以外には、現状の小坂田公園内の自然博物館の施設以上のものはないとの結論に達しました。

そこで、小坂田公園再整備事業では、現自然博物館の建屋を室内子どもアスレチック施設へ用途変更することが決まっていますが、現状の利用を継続することについて英断をいただきますとともに、現自然博物館の展示スペースの拡充や専門知識を持つ職員の配置など、更なる施設の充実についても提言を申し上げます。

なお、この提言による自然博物館の継続利用により「室内子どもアスレチック」の設置場所の変更が必要となりますが『「既存ストック」と「民間活力」を活用して多様なニーズに対応した賑わいのある公園を整備する』という小坂田公園再整備の基本理念を実現するうえにおいて「室内子どもアスレチック」は重要な施設であるので、早急にその施設の設置場所について検討し、再整備計画を見直し、スケジュールどおりに事業を推進していただきたい旨を申し添えます。

令和4年10月11日

塩尻市議会議長 牧野直樹